

2026. 2/4 地方議員研究会セミナー

「予算審議を武器に変える」今村寛講師

報告者：会派 輝 河井美和子

今村講師は、福岡市の元財政局財政調整課財政調整課長他、福岡地区水道企業団総務部長という経歴を持ち、市役所時代に職員向け「財政出前講座」の開催、これが人気で噂となり、他自治体への「出張財政出前講座」を開始。役所勤務の傍ら、『自治体の“台所”事情～“財政が厳しい”ってどういうこと?』を刊行する一風変わった経歴の持ち主である。通常は、議員経験者から議員サイドの講和を聞くが、職員側の視点から、財務や政策実現・一般質問・質疑の在り方を講義していただいた。行政・職員サイドから議員の仕事がどう見えるかどうあるべきかの視点は、大変参考になった。

政策の実現手段について重視すべきは、その政策の実現の可能性がどのくらいあるかを見よ、ということであった。課題解決の手段として採用する方法が課題解決の手段たりうるのか、論理的に因果関係として説明できるかどうか。

「風が吹く」から「桶屋が儲かる」までの展開に無理がないかをチェックせよ、とのことであった。元財政課長の視点のアドバイスとして、「有利な起債はお得なのか」「地方交付税の弱点」「ふるさと納税に潜む罠」「稼がない自治体を目指せ」「財政健全化の入口と出口」等、非常に示唆に富み、新たな視点を授けてくれるような内容であった。特に心に残ったものとして「稼がない自治体が稼ぐもの」として、自治体の本業は「市民の福祉の増進」である為、

「稼ぐ自治体」を目指すのはやぶさかでないが、本業とのバランスを気を付けるべきである。「稼がない」ことで得られる資産もある。それは、「対話」「協働」による「信頼」である。必ず会いに行き対話をする、雑談でもよい、その中に「信頼」が得られる。要は、皆がウィンウィンになること。「稼がない自治体」が稼ぐことは「信頼」に他ならない、とのことであった。この視点には、ハッとさせられた。また「経常収支比率」の正しい活用として、「他の自治体と比較するのではなく、過去の我が自治体と比べることが、財政健全化へ導く入口である」こと。経常的経費の増大は、過去の政策決定の結果である。過去の否定ではなく、優先順位を最適化することが重要、という視点を学んだ。非常に中身の濃い内容であった。今後に生かしていきたい。